

## 令和5年度第4回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 令和6年3月15日（金）  
◎開催日時 令和6年3月22日（金） 午後2時16分～午後3時31分  
◎場 所 信州高遠美術館  
◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、北原職務代理者、田畑委員、黒河内委員  
◎欠席者 原田委員  
◎出席職員 三澤教育次長、宮下学校教育課長、北林子ども相談室長、矢澤生涯学習課長、早川市誌編さん室長、小島社会教育指導員、福與指導主事、酒井指導主事、伊藤教育総務係長

### 1 開 会

教育次長

ただいまから第4回目の総合教育会議を開会いたします。はじめに白鳥市長からご挨拶をいただきます。

### 2 市長あいさつ

市長

今回、庁舎を出て総合教育会議を開催するのは初めてですが、やはり現場は現場なりの力があると思いながら、先ほど池上秀畝の作品を見てまいりました。私も秀畝の名前や代表作は知っていますが、スケッチや野帳を含めて作品の数や精緻な筆さばきなど、改めて郷土の誇る画家であると感じました。

桜はまだで春はもう少し先という状態ですが、来る途中、梅がちらほらと咲き始め、明後日の春の高校駅伝に向けて、子どもたちが試走している様子を見ながら高遠へ参りました。天気が心配されますが、天気によらず開催する予定ですので、子どもたちには記録を狙って一生懸命走ってくれると思います。今年は男子が134チーム、女子が58チームと過去最高で、職員やいろいろな皆さんが前々から準備に当たっています。

池上秀畝展は、伊那市では高遠歴史博物館と信州高遠美術館、創造館で開催していますし、長野県の県立美術館、練馬区の区立美術館でも開催しています。生誕150年ということで改めて光を当てる機会ですが、伊那小学校にも素晴らしい作品があり、単に小学校で保管している中で劣化していかないか、基本に立ち返って考えてみることも必要と思います。これだけ大事な作品が、それぞれバラバラに保管されているよりも、安心できる場所で保管した方がいいのではないかと感じました。

今日は、この他に、ICT活用教育の指針となる学校教育情報化ビジョンについて、令和6年度からの新しいビジョンも説明をさせていただきます。限られた時間ではありますが、よろしくお願いします。

教育次長

ありがとうございました。続いて教育長からご挨拶をお願いします。

教育長

6月、9月、10月に続き、今年度4回目の総合教育会議です。市長からお話いただきました池上秀畝展を開催している高遠町歴史博物館と信州高遠美術館を訪ねて、ここ美術館を会場にしての総合教育会議です。

今私が持っているのが「わたしたちのふるさと」です。毎年小学校の4年生に配布していま

すが、現在、時点修正をかけており、新しい4年生には改定版をお届けできると思います。坂本天山、井上井月、伊澤修二、中村不折、伊澤多喜男、続いて池上秀畝が出てきます。2ページ1テーマでほぼ統一されています。初めて出版した時に、一般の方から大変多くのお問い合わせをいただいて、1冊500円でお分けしています。今回も多くの方が手にとっていただくと良いなと思います。

本日議題となっている学校情報化ビジョン2024は、学校情報化委員会で検討を重ね、ほぼ完成となりました。担当が大変苦勞しながら膨大な資料にあたりつくっています。伊那市の教育の質の向上に繋がるように活かしていく、またそこを目指して取り組んでいく、そのように思います。私達もそのことを大事に考えて、学校の取り組み、先生方の取り組みを支援してまいりたいと思っています。今日はどうぞよろしくをお願いします。

教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項に入りたいと思います。ここからは市長の進行でお願いいたします。

#### 4 協議テーマ

##### (1) 「池上秀畝生誕150年記念事業」について

白鳥市長

先ほどあいさつでも触れたのですが池上秀畝の作品について、学校など様々なところで保管しているものをどのように扱っていったらよいかについては、大事なテーマだと思っています。池上秀畝生誕150年の記念展が終わると、また元に戻って、陽の目を見ることはあまりないままになってしまうと思います。その間、例えば紛失や劣化などが心配されるところです。

何か良いお知恵があれば、懇談の雑談の一つとしてテーマにしたいと思います。

教育委員

ICT教育にも関わり、例えば油絵、日本画、水墨画などの美術について、子どもたちが、地元作家の作品は何だろうと調べようと思ったとき、例えば池上秀畝のスケッチブックを検索すると、まさに手元にとってタブレットでページをめくるような、手に取って見ているような形で、美術の授業などで手に取って見える、本棚から引っ張るようなイメージで見られると印象に残るでしょうし、何度でも眺めることができる、非常に身近なものとして感じてもらえますし、それを模写することで、教材としても生きてくると感じました。

市長

そうですね。その他どうでしょうか。

教育長職務代理者

学校によって収蔵している部屋が違うので、もう一度確認する必要があると思います。学校には池上秀畝だけではなく、沢山のお宝があります。以前に上伊那教育会で学校を回り、データは残っていますが保存状況までは確認してないと思います。

私事ですが、今回出品させていただいた作品があり、年2回は虫干しをし、防虫剤を入れて保管しています。専門家が来られ、上座敷の戸袋に池上秀輔が描いてくれたところがあり、以前、だいぶ煤けてきたので、父が洗ってしまったことがあります。今回も洗った状態で出品しています。絵を学び始めてから20代くらいまで、こちらへ帰ってきて頼まれるとよく書いていたようですので、作品も結構あると思います。保存についてそういったこともありうると思います。

市長

今の状態が決して良いと思わない中で、学芸員の立場で一般的な保存方法についてどうですか。学校では「学校のお宝」というイメージがあるし、もちろん学校にそういうものがあるということは事実として、それをずっと残せるような方法、デジタル化や、タブレットで見られるようにする、などもある。

秀輔の作品といっても、展示されている絵ぐらいしか知らないけれども、タブレットにデータあればたくさん見られるし、他にも不折などの作品を取り込んでいけば身近に見られるようになる。スケッチや細密画に興味がある子はそういうものを見るだろうし、歴史に興味がある子はそうした視点で見ることもあるかもしれないし、そういう扉になると思います。

学芸員

デジタル化は美術では割と進んでおらず、図録でご覧いただくことが多いです。デジタル化を進めると美術作品に対する目も変わってくるし、保存も公の施設で保管することで作品を公開していくことにもつながると思います。

学校のお宝は、学校教育課で台帳を作り、文化財係が管理しています。調査時点の状態は確認できていないので、学芸員としては保存状態がどうなっているか現状を確認して、緊急で保存処置が必要な場合は、きちんと処理していく必要があると思います。

市長

学校や施設には、様々な作品があると思います。全部という訳にはいかないと思いますが、保存状態を調べたり、何か方針を出したりしながら進めた方が良いと思います。

教育長

池上秀敏のスケッチ画は、どのぐらいありますか。

信州高遠美術館長

ここには109作品あり、一点ずつ数えると3,800点ぐらいになります。

市長

他の美術館の様子はどうですか。

信州高遠美術館長

ここが一番多いと思いますが、県立美術館にもある程度あると思います。

教育長

今回、スケッチ帳を展示いただいたことはとても素敵だと思い、市長ともそのように話しました。スケッチ帳は「次のページにどんな絵があるのだろうか」と感じる方が多いと思います。今の展示方法は精一杯で、手に取って見ることは叶わないと思います。開いてあるそのページだけしか見られないところは検討していける可能性はあると思いながら聞かせていただきました。

市長

その他はどうでしょうか。

スケッチもデジタル化した方が良いと感じられたと思います。それを阻んでいるのは何か、時間、予算、撮影方法など整理していくにあたり、どこまでできていて、一番ネックとなるところ

ほどのあたりでしょうか。

信州高遠美術館長

そこまで手がついていない状況です。

市長

作業する人、対象の作品数、予算的なものもあります。教育委員会で検討して、スタートが切れるように、活用方法など含めてぜひ考えてください。

三澤

活用するにはその仕組み、1つ公開するのに1つの仕組みだと、どんどん費用かかっちゃってしまうので、そのあたりはこれから考える必要があると思います。

教育委員

教材として、例えば鶴の絵など画家が成長していく様子を感じました。授業の中で教材として細密画や日本画をテーマに模写するなど活用していくと、まさに秀畝が見た見方を1回自分の中に入れることになり、すばらしい美術の教材になると思います。

単純に鑑賞ではなく、描くことについて美術の先生たちと議論いただき、芸術家に学ぶ、教材としての活用に向けたデジタル教材があると、一つの突破口になると思います。

市長

それを含めているようなアイデアについてどうですか。保存について意見をいただきました。他に池上秀畝、美術館も含めて、意見や考えがあればぜひ出してもらえればと思います。

教育長職務代理者

玄関を入ってきたところにポスターがありました。150年記念について、同時にこれだけの会場で展示することは本当に稀有な機会だと思います。6館で開催するというので、ここへ来たら他の館でもやっていることがわかると良いと思います。街中や駅でも同様にして、皆さんにわかっていただくことが大事だと思います。お花見に来た皆さんも足を運んでくださると思いました。

市長

それぞれのところ展示していることが分かるように、長野県立美術館にもポスターは全部並べて貼ってもらった方が良いので対応してください。

指導主事の先生はどうですか。

指導主事

高遠小の教頭時代に高遠小にはお宝がたくさんあり、劣化が進まないよう、何点か歴史博物館へ寄託をお願いしています。学校のシンボルになっている「学得則」は歴史博物館に本物がありますが、学校の象徴としてレプリカを飾っています。

学校で大事にしているけれども、伊那市としても大事にしていくものはきちんと保管することが大事で、学校施設の中では劣化したり、異動する中で所在がわからなくなったりすることも心配されます。道筋をつけ、きちんと保存できる場所をお願いしていくことが大事と思いました。

市長

本物と遜色ないほどのレプリカがあり、本物はきちんと保管していることになるなら、それは

それで大事だと思います。どのくらいかかるか、そのあたりも調べてもらえればと思います。その他どうですか。

#### 教育委員

伊那市のホームページで「美術館」を検索すると場所は出てきますが、何をやっているかが出てきません。トップページには桜が出てきますが、池上秀敏 150 周年の記事が少ない印象があります。

#### 市長

すぐに秘書広報課と調整してください。それでは次のテーマをお願いします。

#### (2) 「伊那市学校教育情報化ビジョン2024」について

学校教育課長、足助 ICT 活用教育専門幹

「伊那市学校教育情報化ビジョン2024」について説明

#### 市長

伊那市が取り組み始めた黎明期から今日に至るまでのことをまとめてあり、そうした中で子どもたちが成長していると感じました。学校は地域にとって本当に楽しみである場所で、小さくても授業ができる、遠くの学校や同学年の生徒と同じ授業、例えば理科、音楽、美術なども可能だと思います。そうした授業をA小学校、B小学校、C小学校で例えば3学年同志で授業ができれば、専科の先生が足りないところもカバーできるはずなので、その辺は積極的に進めていただきたいと思います。小さい学校でも大きい学校と遜色のない授業内容が可能ということです。

先日、丸紅とソニー、富士通の社員の皆さんが伊那市に来て、研修会を行い、伊那市の取り組みについて講義しました。ソニーから来た社員は「私達は世界的に有名なあの会社です。」と前置きをして、「部下に伊那の出身者がいるけれども、どうしてああいう発想で物事を進められるのか非常に不思議だと思っています。伊那市の教育はどうなっているのですか。」という質問がありました。同時期に三菱UFJの皆さんと話をした時も「部下に伊那市出身の社員がいて、今は違うところにトラバースしているけれども、飛び抜けて面白い考えを持っています。伊那小学校などお聞きしているが、どういう教育しているのですか。」という話が立て続けにありました。「僕たちはよくわからない。」と言ったら「市長だって、面白い考え方ですよ。」と言われ、伊那市の職員たちもいろんな考えを持ち、様々な取組を行っており、外から見ると異端にも見えるけれどもチャレンジできている、それが伊那の教育なのかなと思いました。

今の説明を受けて皆さんから意見をいただきたいと思います。「はじめに子どもありき」という教育の原点にICT教育を積極的に取り入れています。今は旬でも、時間が過ぎれば陳腐化していくので、走り続けていく必要があります。先頭を走ることは常に判断を間違わないようにしなければならず、責任もあります。今後こうしたことも取り入れたら良い、あるいは足助先生のような集団をもっと大きくした方が良いなど、ご意見をいただければと思います。

#### 教育委員

今回初めてお話を聞かせていただいた。直接お話を聞かせていただく機会がもう少し早くてもよかったかなと思います。

今日は本当に感心しながら聞かせていただきました。伊那が先駆者になっていくところを支えていただいている先生方に非常に敬服の思いを持っております。

最近、現場から言われることがあり、単純に言うとな新入社員がうなずかなくなってきたという話があります。本当に共感しているかどうかはわからないのですが、投げかけられた事に対して素直

に受け止めて咀嚼する力が圧倒的に減ったという話をお聞きします。タブレットが普及し、子どもは見たいものしか見ません。ファミレスへ行くと、それぞれが動画を見ながらご飯食べている家族も増えてきました。

本当に大事なものは、共感とか共振して共同の学びになるための材料としていくことであり、気がつく自立ではなく孤立が生まれてくる側面をいかに打開していくかということで、孤立、孤独、自分にしか興味がない社会が生まれてくる中で、この伊那市のICT教育には、共感、共振、相手の興味に寄り添う状況が生まれてくる方法があるエリアになったら良いと思いました。

市長

はい。他どうですか。

教育長職務代理者

今回のビジョン策定に当たり情報化委員会に参加させていただきました。策定に当たっては、これまでの3年間を振り返る中で、目を開く、内外の書物をそれぞれ学びながら全員で提案する中で策定されたものです。今回はそれぞれクローズアップされており、非常に焦点的でわかりやすいものとなっています。個別最適という話がありましたけれども、そういうところの具現化、具体的に現場でどうするかについて、現場の先生方にどう浸透させていくかが大きな課題だと思いますが、センターが校長の研修、現場の研修等を行っていますので、大きく期待しています。

教育委員

情報化委員会に参加して、確かに読んでくるべき本などがあり、勉強させていただく機会にもなりました。その中で、先ほどタブレット機器を使うってこと自体はもう既に当たり前になっているという話がありました。以前は使うこと自体が目的のようなところもありましたが、今ではそれが当たり前になり、何をするかという段階に変わってきたという議論もありました。

「学校教育情報化ビジョン」というタイトルですが、この「情報化」を取ってしまい、「伊那市学校教育ビジョン」としても、何ら遜色がないくらいの内容になっていると思います。先ほど池上秀敏の作品をどのように教育の現場に使うか、デジタル化するかという議論がありましたが、この枠組みの中で池上秀敏の題材を使うという視点で着手したらどうかと思います。そのことによって、情報化ビジョンを達成するだけではなく、教育全体が大きく変わる一つの切り口、伊那の教育を引っ張っていく、変えていく強力なツールだと思いました。

市長

教育次長はどうですか。

教育次長

今までいろんな計画にも携わってきた中で、シンプルでわかりやすいと思いました。

市長

他はどうでしょうか。

教育長

この委員会は非常に開かれた、柔らかい関係で意見交換がされていました。教育委員会では「1人に確かに届く」という言葉を使っていますが、不登校の子どもたち、教室に入れないうる子どもたちのことを置きっぱなしにするようなビジョンではいけないという意見も出されました。この委員会は本当に機能する委員会だと思いました。

2つ目に、伊那市のICT活用教育の強みは教員の研修に深く関わっていることがあります。夏には10講座ほど開かれており、講師は学校の先生たちが務めており、ICT活用を担当している先生たちの力がどんどん厚くなっています。研修はこれからも大事に考えて行く必要があります、例えばどこかへ見に行くようなことは躊躇するかもしれませんが、場合によってはそういうことができるようにしていくことが私達の役目であると思いました。

教員が力をつけていくことは絶対に大事で、それが支えの1つであり、こどもに未来を創る教員というのは本当にそうだなと思いました。

市長

研修はどんどんやってもらって構わないし、やって欲しいと思います。スタッフが足りなければどんどん言ってもらい、研修、視察、その繰り返しの中で、さらに高みに到達すると思います。

市長

不登校の話がありました。次回の総合教育会議では、不登校や貧困、引きこもり、ヤングケアラーに係る現場の声をぜひお聞きしたいので、テーマの一つにしてもらいたいと思います。このことは日々変わってきています。増えたり、中身が変わったりしています。その時点できちんと把握して、対応していくことが大事だと思います。

特にICT機器を使うことで、学校へ行くのは苦手だけど、家で同じように授業を受けられることは本当に素晴らしい救いだと思うし、学校への復帰、また参加できるようなチャンスを持つことにつながると思います。例えば、どの科目も嫌いだけれども、このことは好きということが一つの繋がりになって、自分が気付かなかった能力を発揮できたりすることもあるので、ぜひICTを使いまわしてもらいたい、前に前に進めてもらいたいと思いますので、よろしく願います。

5 閉会

教育次長

ありがとうございました。以上で、今年度最後の総合教育会議を終わります。ありがとうございました。